

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475101028		
法人名	社会福祉法人 東北福祉会		
事業所名	せんだんの里 国見ヶ丘3丁目グループホーム		
所在地	宮城県仙台市青葉区国見ヶ丘3丁目146-2		
自己評価作成日	平成23年11月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0475101028&amp;SCD=320&amp;PCD=04">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0475101028&amp;SCD=320&amp;PCD=04</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台3階		
訪問調査日	平成23年12月20日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

青葉区国見ヶ丘の住宅街に位置し、小規模デイサービスとの合築型として設置しています。開設から11年目になり、地域にも少しずつ溶け込んできています。毎月の町内一斉清掃に出たり、町内会の夏祭りを見に出掛けたり、地域のボランティア団体の食事会に参加させてもらったりしています。また、当事業所として秋祭りや介護教室、防災訓練を開催し地域との交流を図っています。デイサービスが併設されているということで、入居者の方々も地域の方とのふれあいが持て、生活に広がりが出ています。長く入居されている方は心身共に障害が重くなっていますが、本人らしく生活が出来るようなケアをしています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな住宅街の中に位置し、開設から11年経つため、地域から認知されている。また、同法人の施設が近くにあり、事業所間連携ができ、職員や利用者の安心につながっている。特に隣のデイサービスとはお互いに連携し、レクリエーションや相互交流が行われている。職員の年齢層が幅広く、子供や孫のような関係ができ、大家族のような雰囲気がある。利用者は、明るい居室で、ゆったりと暮らしている。近隣の市民センターでの介護教室の開催や、ホームの秋祭りでのフリーマーケット、バーベキューなど、地域を巻き込んだ取り組みを積極的に行っている。「全ての人がひとりの人間として尊重され個性が輝く共生の地域づくり」という法人の基本理念を実践している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	積極的には行っていないが、必要時には情報提供できる体制を整えたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を十分に設け、ご家族の意向・質問などを伺い、納得していただけるまでお話しするように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を設置したり、面会時などに要望を伺うようにしている。	計画作成時に、家族からの要望や本人の好みなどを常に把握するように努めている。第三者委員を委嘱しており、きめ細かい対応ができる体制になっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のコミュニケーションを大切にし、月2回のミーティングの際など、職員間での意見交換を行っている。	年2回職員の個別面談を行い、希望や要望を聞いている。隣のデイサービスとの協力体制、利用者の重度化による2人介助の提案、また若い職員からは、夏のバーベキュー大会の提案あり、デイと合同で開催し、家族の参加もあった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を導入している。自己評価や面接などを行って振り返っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外を含め、勤務年数や担当に合わせて研修参加を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮城県グループホーム協議会に加入しており、事業所間での交換研修や情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前に訪問しご本人、ご家族、関係機関から情報収集して安心して生活できるようにサービスにつなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の本人の聞き取りや入居間もない場合には、電話を入れたり場合によっては来ていただいたりして生活の様子を伝えるなどしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、本人、関係機関からの情報を基にカンファレンスを行い、管理者、介護支援専門員、リーダーを中心に各関係機関を含めて対応を話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人一人のできることを把握した上で、買い物や洗濯物畳み、調理などを職員と一緒にいき、暮らしを共にするようになっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	プラン作成時に要望を聞いたり、受診時に付き添っていただいたり、食事会に参加していただくなどをしており、家族と共に支える関係に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の方々との関係は継続できていないが、自宅に宿泊したり、馴染みの友人の面会がある。いつでも面会を受け入れを行っている。	開設から11年が過ぎ、利用者の居住年数が長くなり、ホームが馴染みの場所になっている。自宅への外泊や友人の来訪時には、混乱しないような支援や、法事などの家族行事の出席の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の性格もふまえて関係性を把握し、孤立やトラブルにならないように食事の席を検討したり職員が仲介して入居者同士が支え合えるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族の意向を確認し、地域密着運営推進会議の委員をお願いして、食事会、町内会の催事などに参加していただいている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴の把握や日常の会話、行動等の状況を把握し、毎月のカンファレンスで暮らし方の希望等を職員同士で確認し、実行するように努めている。	できることや何が好みかをカンファレンス時に詳細に係わり方などの検討を重ねている。睡眠と認知症状の関係を観察し、改善を図るよう努力している。趣味を続けることや、洋服をカタログを使って選ぶなど、好みの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメント等を確認したり、ご本人・家族・関係機関から情報を収集して生活環境を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の体調等を確認しながら、変化があった際には再アセスメントをして把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の意向を確認し毎月のカンファレンスの際に検討している。変化があればすぐに見直しを行うようにしている。	担当職員のモニタリングと他の職員からの情報、そして家族からの要望や意見、主治医や訪問看護師からの意見を介護計画に反映させている。家族アンケートでは、利用者家族全員がきちんと説明を受け理解できていると回答している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活状況をケース記録として記入し職員全員が確認するようにしている。また、記録を基にモニタリングプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の要望・ご本人の状況に合わせ迅速に対応できる情報の共有・申し送りの徹底に努めている。また、併設しているデイサービスも活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティア団体の食事会・町内会の夏祭り・町内会一斉清掃に参加するなどして、楽しみを持っていただくと共に地域の一員として暮らしていただくよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の定期的訪問と随時の報告・訪問・相談で密に連携をとっている。	主治医と訪問看護師が、定期的に訪問している。主治医の指示で、近所の他科を受診することもあり、その際は、家族あるいは職員が付き添っている。家族とは状態や医師からの指示などの情報を共有している	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	契約の訪問看護STの看護師の定期的訪問と随時の訪問で適切な看護が受けられるように支援している。定期的及び必要時には、本人の状態を報告・連絡する体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中に主治医・担当看護師の方々からの情報を収集し退院に向けての準備・話し合いの場を設け対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化・終末についての方針を説明するとともに、ご本人の状態に応じてケアプラン提示時にご家族の意向を確認していくようにしている。また、主治医・看護師との情報共有に努めている。	重度化や看取りに関する方針を入居時に説明し同意を得ている。まだ看取りの経験はないが、主治医主催の、看取りの勉強会に参加し、準備を始めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員採用時の研修や事故発生時のマニュアルを作成している。また、救急救命の講習にも参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を地域の方にも参加していただき実施している。また、不定期ではあるが、職員全員が身につけられるように随時行っている。	年2回、夜間想定を含め防災訓練を実施している。地域ボランティア代表者や民生委員が参加している。感染症等に対する対策と対応の勉強会を毎年行っている。	火災報知機の音が外に聞こえないので、改善の必要がある。近隣住民との連携で、より災害時の安全が確保できるので、近隣住民が避難訓練に参加するよう、お知らせなどでの働きかけを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目上の方という気持ちを忘れずに誇りやプライバシーを損ねることの無いように対応している。	呼びかけは名字で呼んでいる。驚かせないように、大きな声や音をたてないように注意し、ゆったりとした雰囲気を作るよう努力している。排泄の誘導は、さりげなく、誇りを傷つけない配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お話を十分に傾聴し、本人が思いや希望を出せるように対応しており、ご本人の意見を大切にして生活していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決して無理されることの無いようにその人のペースと体調に合わせて声掛け・介助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で衣類を選ぶことができない方には、職員と一緒に季節感や身だしなみを大事にして支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方のできること、できないことを把握して、調理への参加や片付けに参加してもらっている。	食材は、生協の宅配で、利用者とともにメニューを考えている。職員と一緒に買い物にも出かけ、手作りの食事を作り、食べている。法人の管理栄養士に介護食やソフト食のアドバイスももらっている。	年2回以上、栄養士にメニューへのアドバイスを受けることを期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は毎日記録しており、個々の状態に応じて摂取していただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内に食物残渣物がある方などは毎食後歯磨きやうがいをしていただき、起床時と就寝時は全員歯磨きを行っている。また、訪問歯科を利用して指導を受けている方もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや尿量を把握し、パットの使い分けをしたり、随時定時のトイレ誘導を行っている。自立している入居者に関しては見守りを中心にケアしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表にて排便状況を把握し、個々に応じた排便を促す飲食物を提供すると共に、適度な運動を取り入れている。また、随時訪問看護師とも相談して薬の調節をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	なるべく希望に沿うように努めている。また、特殊浴槽を利用してゆっくりと入浴していただけるように支援している。	毎日入浴できるよう準備をしている。個浴での入浴が困難になっている利用者は、法人内の施設で、特殊浴槽を利用して入浴できるように支援している。入浴剤等で「今日は美人の湯です」と声掛けし、気持ちよく入浴できるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の体調に合わせて1日の中でも居室で休んでいただく時間をとったり、ソファで休んでいただく等している。また就寝は自然に眠れるようにタイミングや状況を見て声掛けをして休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬内容を把握し、処方された薬に関しては服薬方法・効果なども確認している。服薬で症状に変化が見られた場合は主治医・看護師に報告・相談するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きなこと、できることを把握し、家事作業を担っていただいたり、ボランティアによる音楽会やフラワーアレンジをしたり、リビングで皆で歌を唄ったりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調・気分を配慮しながら散歩や買い物・ドライブに出掛けたりしている。訴えられない方や車いすの方の思いも把握して積極的にアプローチして気分転換を図っていただいている。	外出は皆が楽しみにしているため、できるだけ機会を作るように努力している。泉ヶ岳へのドライブや、近くの喫茶室へお茶を飲みに出かけている。地域のボランティアが主催する食事会を楽しみにしており、毎回参加している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関して管理できる方には個人の財布を持っていただいております。ご家族とは管理方法について話し合っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話の際などにはご本人への取り次ぎををしたり、毎月近況報告のお便りを出しており、いつでもやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じる装飾や写真、日めくりカレンダーの使用、観葉植物などを配慮し環境整備に努めている。フロア内の音・温度なども随時調節して居心地良く過ごせるように努めている。	広いリビングに、利用者の状況に合わせたテーブルのセッティングで、洗濯物を畳んだり、話をしたり、まどろんだりと家族のように自然体で暮らしている。利用者の書や、折り紙、切り絵などが飾られ、クリスマスの飾りつけなど、季節感が感じられる空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはテーブル席、ソファ席の他に椅子を各所に設置しており、気分によって過ごしたい場所で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される前から使用されていた馴染みの家具などを持ち込んでいただいている。また、家族の写真やご自分の作品を飾っている。	タンスや椅子など馴染みの家具が置かれ、家族の写真やお気に入りのカレンダーが飾られ、その人らしい設えになっている。押入れがあるため、部屋が広く居心地の良さが感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの入り口に目印を付けたり、居室の入り口には表札をかけている。		